

Shibusawa Memorial Museum



ようこそ
渋沢史料館へ！



About Eiichi Shibusawa
渋沢栄一について

1840年、武蔵国榛沢郡血洗島村（現・埼玉県深谷市）の農家に生まれました。家業の畑作、藍玉の製造・販売、養蚕を手伝う一方、父・市郎右衛門、従兄・尾高惇忠に読書や学問を教わりました。青年期に尊王攘夷思想に傾倒しましたが、知遇を得て一橋慶喜に仕えることになりました。

1867年、徳川慶喜の実弟・昭武に随行し、パリ万国博覧会を見学したほか、欧州諸国の実情を見聞することができました。

欧州から帰国後は、明治政府で新しい国づくりに深く関わります。

1873年、第一国立銀行の総監役に就任し、民間経済人として活動をはじめます。株式会社組織による企業の創設・育成に力を入れ、「道徳経済合一説」を説き、生涯に約500社もの企業に関わりました。

また、約600の教育機関・社会公共事業の支援並びに民間外交に尽力し、多くの人々に惜しまれながら1931年11月11日、91歳の生涯を閉じました。

3つのテーマでひも解く、
渋沢栄一

渋沢栄一にふれる

栄一の映像、回想、関連資料から「日常」、「思い」、「言葉」にふれていただきます。栄一の邸宅「曖依村荘」で、もしかしたら栄一の姿に出会えるかもしれません。



渋沢栄一をたどる

栄一91年の生涯を、年齢ごとにご覧いただけます。生まれから順に見ても、あるいは好きな年齢だけを見るのも、あなた次第。どうぞ自由に栄一の生涯をたどってください。

渋沢栄一を知る

栄一が携わったさまざまな事業や活動、人々との交流を紹介します。随時、展示替えを行います。



入館料（晩香廬・青淵文庫含む）

	個人	団体(20名以上)
一般	500円	400円
小・中・高生	100円	80円

開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日 月曜日（祝日と重なる場合は開館）
祝日の代休（祝日後の最も近い火～金曜日の1日）
12月28日～1月4日

交通 JR京浜東北線王子駅南口より徒歩5分
東京メトロ南北線西ヶ原駅より徒歩7分
都電荒川線飛鳥山停留場より徒歩4分
都バス飛鳥山停留所より徒歩5分
北区コミュニティバス
飛鳥山公園停留所より徒歩3分
※駐車スペースのご用意はありません。公共交通機関をご利用ください。



〒114-0024 東京都北区西ヶ原2-16-1（飛鳥山公園内）

TEL：03-3910-0005

<https://www.shibusawa.or.jp/museum>

<https://x.com/bankouro>

About Shibusawa Memorial Museum

渋沢史料館について

渋沢史料館は、近代日本経済社会の基礎を築いた渋沢栄一（1840～1931年、号は「青淵」）の思想と行動を顕彰する財団法人である「渋沢青淵記念財団竜門社」（現・公益財団法人渋沢栄一記念財団）の附属施設として、1982年、渋沢栄一の旧邸「曖依村荘」跡（現・東京都北区飛鳥山公園の一部）に設立された登録博物館です。

Library

青淵書屋
せいえんしょく

当館発行の展示図録、パンフレット、講演集や『渋沢栄一伝記資料』などの渋沢栄一に関する図書をお読みいただけます。



Shop

青淵商店

当館発行の展示図録やオリジナルグッズを取り揃えたミュージアムショップ。



Refresh

リフレッシュコーナー

「曖依村荘」の面影を眺めながら、邸宅の変遷を描いたイラストをお楽しみいただけます。



Bankōro



晩香廬
ばんこうろ

国指定重要文化財

栄一の喜寿（77歳）を祝って、1917年に清水組（現・清水建設株式会社）より贈られた洋風茶室です。名称を栄一がつけ、渋沢邸をおとずれた賓客のおもてなしの場として活用しました。隅々まで行き届いた洗練された意匠と丹念につくられた工芸品は、当時新進気鋭の美術工芸家によって制作されました。

みどころ



「壽」
暖炉前飾りには、栄一の喜寿を祝う建築であることをあらわす「壽」の文字がデザインされました。

みどころ



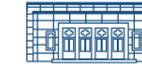
長寿を願う
照明器具の笠の四方には、長寿を表す「鶴」の姿を見つけることができます。

みどころ



温かな箱
六角型の箱を積み重ねた正体は、火鉢です。一番上に灰が入り、下から2段目は引きだしになっています。

Seien Bunko

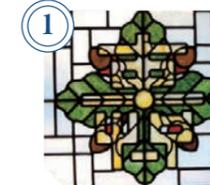


青淵文庫
せいえんぶんこ

国指定重要文化財

栄一の傘寿（80歳）と子爵に昇格したお祝いを兼ねて、1925年に竜門社（現・公益財団法人渋沢栄一記念財団）が贈呈しました。『論語』などの蔵書を収蔵する個人文庫として設計されたことから、全体的に堅牢な造りとなっています。竣工後は、主に接待・接客の場として栄一が活用了しました。

みどころ



ガラスのPATCHワーク
渋沢家の家紋をモチーフにした柏の葉を4枚十字に置き、中央に「壽」の飾り文字をデザインしています。

みどころ

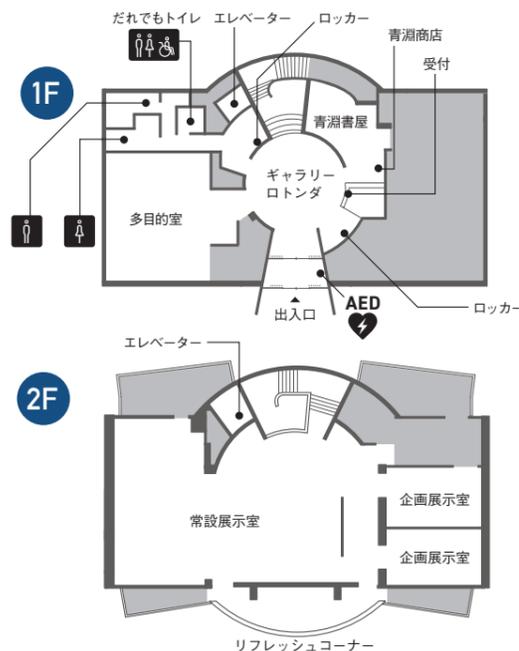


美しい階段
2階書庫に通じるシンプルな造りの階段。栄一の存命中も「もっとも美しい空間」と言われています。

みどころ



職人に脱帽
柏の葉とどんぐりの実があしらわれた装飾タイル。全ての工程が手作業のため独特の温かみを感じられます。



飛鳥山の渋沢邸 (曖依村荘)

1879年、栄一は飛鳥山に賓客接待の別邸をかまえました。以後、庭園を整備し、日本館、西洋館、茶室、文庫などを建設しました。1901年からこの邸宅を本邸とし、1931年に、91歳で亡くなるまで過ごしました。

この邸宅は、公の目的でよく利用され、栄一の民間外交の拠点にもなりました。1945年4月の空襲により、建物の多くを焼失しましたが、晩香廬、青淵文庫など一部は現存します。



表門



日本館



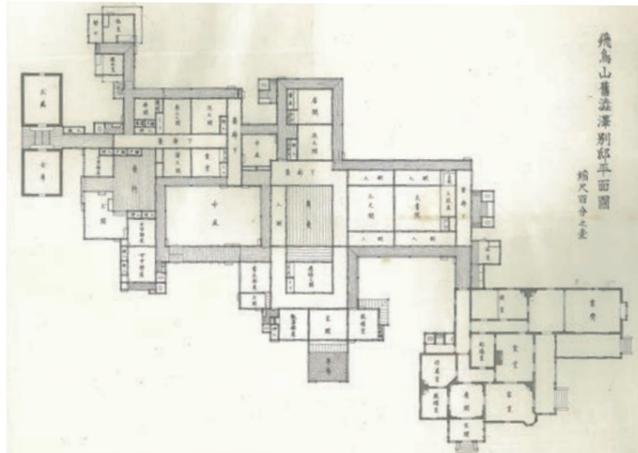
西洋館



茶室「無心庵」

1898年、栄一はそれまで別邸として使用していた飛鳥山邸を、本邸にすることに決めました。本邸として使用するための工事を同年5月に着工。日本館を増改築、西洋館、さらに土蔵および金庫などの附属建物を新築し、1900年12月に落成しました。この工事は、別邸時代の建物に手を加えるのみならず、新たな

建物を築くため、各専門家を交えた大規模なものでした。飛鳥山の渋沢邸は中国の詩人・陶淵明の「帰園田居」の一節「曖曖遠人村、依依墟里煙」から、「曖依村荘」と名付けられました。その規模は、敷地総面積約28,000㎡、日本館と西洋館をつないだ母屋などは総建築面積約1,900㎡でした。



飛鳥山旧渋沢別邸平面図
「曖依村荘写真帖」
合資会社清水組（1936年11月）

掲載資料はすべて渋沢史料館所蔵



フランスにて



1883年頃



西洋館でくつろぐ



公私で活用された飛鳥山邸

国際聯盟協会主催
東洋赤十字会議招待茶話会
(1926年11月23日)



タゴール歓迎会
(1929年6月30日)



孫たちに囲まれて
(1929年10月25日)



飛鳥山邸で過ごす栄一

読書をする
(1931年4月24日)



揮毫をする
(1929年1月26日)



庭の風景を楽しむ
(1931年4月24日)

飛鳥山の渋沢邸 (曖依村荘) 復元図

4 青淵文庫 現存

落成：1925年
設計：中村・田辺建築事務所
国指定重要文化財

1 表門 焼失

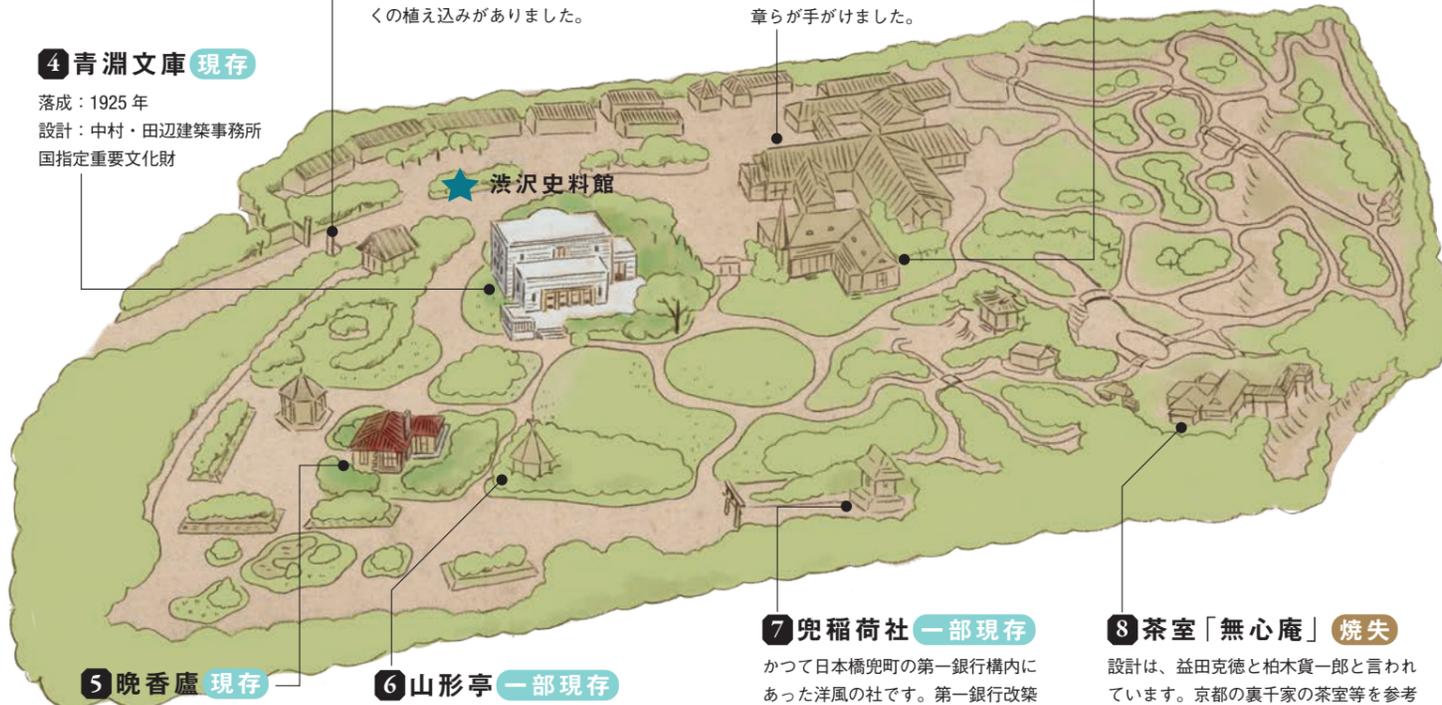
表門は現在の旧渋沢庭園入口よりやや外側にありました。「本郷通り」から表門への坂道には砂利石が敷き詰められ、両側に玉石が積まれ、多くの植え込みがありました。

2 日本館 焼失

設計は柏木實一郎が担当。別荘時代からの146坪余の建物が改築され、172坪余が新築。屋内の襖・杉戸の絵は、橋本雅邦、狩野良信、川端玉章らが手がけました。

3 西洋館 焼失

設計は清水釘吉が担当。木造スレート葺で建坪は約83坪。晩年の栄一は、西洋館で過ごすことが多かったようです。



5 晩香廬 現存

落成：1917年
設計：田辺淳吉
国指定重要文化財

6 山形亭 一部現存

丸芝に面した築山にありました。六角形の土台の上に自然木を巧みに組んだ柱で、山形の屋根を支えていました。

7 兜稲荷社 一部現存

かつて日本橋兜町の第一銀行構内にあった洋風の社です。第一銀行改築時に飛鳥山邸内へ移築され、老朽化のため、社殿は現在のものに建て替えられました。

8 茶室「無心庵」 焼失

設計は、益田克徳と柏木實一郎と言われています。京都の裏千家の茶室等を参考に建てられました。徳川慶喜や伊藤博文など、多くの賓客が訪れています。

！ お客様へのお願い

- 展示品にはお手を触れないでください。
- フラッシュや三脚を使用しての撮影はできません。
※撮影は個人利用に限ります。
- 館内での飲食はできません。
- 携帯電話での通話はできません。
- リュックサックなどのお手荷物はロッカーに入れるか、手に持ってお見学ください。

晩香廬見学に際してのご注意
※文化財保護のため、はきものを脱いで入室してください。
※素足、濡れた靴下でのご入室はできません。